

飛鳥資料館春期特別展から

「キトラ古墳壁画四神—青龍白虎—」
平成21年4月17日(金)～6月21日(日)

今年もキトラ古墳壁画の特別公開とそれに関わる特別展の季節が巡ってきました。5月8～24日に特別公開されるのは、青龍と白虎です。現在資料館では、特別展の準備として、泥に覆われてみえない青龍の推定復原をおこなっています。その過程で、いくつかのたいへん興味深い点に遭遇しました。今回は、そのうちの1点について述べます。

キトラや高松塚の青龍と白虎は、型紙を使って描かれているため、輪郭や細部表現が近似することが知られています。そこで、キトラ白虎をよく観察したところ、なんと、右側の前・後肢は3本指、左側のものは4本指であることが判明しました。あわてて、高松塚の青龍・白虎をみたところ、青龍の左前肢に爪を表現する4つの赤い点を確認でき、他はいずれも3本でした。さらに、類例を探したところ、平城薬師寺の本尊薬師如来台座の青龍もキトラ白虎同様、体側で指の本数が異なることがわかりました。

奈文研OBでもある山本忠尚・天理大学教授の研究では、中国の四神の指の数は3本が基本で、唐代の開元年間ごろから4本のものが現れるということです。どうやら指の本数は、四神図の年代観にも関わる重要な観察項目といえそうです。それにしても、キトラ、高松塚、薬師寺の四神にみられるこの不思議な現象をどのように理解すべきなのでしょうか。思い悩んでいるところです。

(飛鳥資料館 加藤 真二)



キトラ古墳壁画「白虎」前足